

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	課題研究	4	3	デザイン	必修	なし

### 1. 学習の到達目標

普段の生活の中から、こうすればもっと良くなる、便利になる、役に立つというような事柄や問題を見つけ、そのためにどういったことをすればその問題が解決できるのかを考え、結果を出していきます。この授業ではその解決策を見つけていくことを目標としています。問題を整理し、解決すべきポイントを定めデータ収集をします。現代はホームページを使うことが多いですが、それだけでは十分ではありませんので、校外に出て集めるということも必要になります。集めたデータを分析し、解決方法を考えていきます。最終的には解決策を何らかの形で提案します。平面作品、立体作品、写真や映像、CGなど様々な方法で展示し、解決に至るまでのプロセスと結果を発表します。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	課題を自ら設定し、その解決を図ることに興味があり、問題解決に向けて意欲的に取り組む学習態度を身につけている。	課題解決のために自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く解決する資質や能力を身につけている。	計画を立て、制作や調査・研究を行い、結果を整理・発表し、研究を深めることができる能力と、表現力を身につけている。	課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、工業の役割、環境、自らの進路等、関連知識について総合的に理解できている。
評価の方法	出席状況、制作態度、計画性、情報収集力、分析力、解決能力、作品の完成度、作品展示、中間発表、最終プレゼンテーションなどを総合的にみて判断し、評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

課題研究は年間を通じて取り組み、最終的には卒業制作展で成果物を展示し、課題研究発表会ではその成果のプレゼンテーションを行います。2年間で学んできたデザインの知識や技術の経験を活かして学習に励んで欲しいと思います。

課題研究は生きたテーマ（問題点）を社会から見つけ、自分で設定して解決方法を提案する学習です。デザインが、地域社会、地域産業において、果たすことのできる役割を見つけて下さい。

### 3年 課題研究 年間指導計画表

単位数（4単位） 教科書：なし

目標	工業（デザイン）に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通じて、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	作品制作 調査・研究	1. グループ編成	1
		テーマ設定	4
		年間研究計画の作成	2
5		情報・資料収集	5
6		2. 情報・資料収集 調査・研究（フィールドワーク等）	12
7		3. 情報・資料収集 調査・研究（関係機関との協議等）	16
		4. 情報・資料収集 調査・研究（制作） 中間発表	8
8		※夏季休業中は現地視察や資材等研究	
9	作品制作 調査・研究	調査・研究・制作	48
10			
11			
12		まとめ（研究成果の提示）	12
1	作品発表準備	展示発表の準備 卒業制作展での研究成果発表	12
2		課題研究集冊子の制作	8

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	実習	6	3	デザイン	必修	なし

### 1. 学習の到達目標

- |  |
|--|
| <p>① ポスター制作 テーマを設定したポスターを制作します。告知ポスター、地元の催事、観光地など、テーマに応じた効果的な表現方法を考えていきます。</p> <p>② ポートフォリオ制作 仕様に沿った形で、情報伝達力、訴求力のあるグラフィックを作成します。</p> <p>③ 絵本制作 ストーリー性のあるもの、幼児向けの学習効果をねらったもの、詩とイラストで構成されたものなど色々あります。絵本の持つ機能や効果を調べ、オリジナルの絵本を制作します。</p> |
|--|

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識
評価の規準	課題の趣旨に関心を持ち、制作計画をたて、意欲的に取り組むことができる。	課題のテーマを理解し、自身のコンセプトに基づいてアイデアを練ることができる。	完成度の高さを求め、適切な表現法で制作ができる。	課題の条件を正確に理解して制作し、合評会では自分の考えをわかりやすく説明ができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況（制作態度、情報収集力、アイデアスケッチなどでじっくりと構想を練っているか）、計画的に制作ができているか、作品の完成度などを総合的に判断して評価します。 また、合評会などの意見発表で自己評価力を見ます。			

### 3. 教科からのメッセージ

<p>3年生ともなると課題の数は少なくなりますが、紙面は大きくなり、量が増え、質も高いものを要求されますので、1つの作品を完成するまでに多くの時間を費やします。構成や表現方法も自分たちで工夫しますので、描画材料も自分の表現方法にあったものを使っていきます。鉛筆からコンピュータまで様々です。そのためには1年次から制作を通して学</p>
---

んだことを実際的に課題に還元できる応用力が必要です。また普段の生活において、いろいろな事に広く興味・関心を持つことが、客観的且つオリジナリティに溢れた作品につながります。

### 3年 実習 年間指導計画表

単位数（6単位） 教科書：なし

目標	工業の各分野（デザイン）に関する基礎的な技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
----	---

月	大項目	中項目	時数
4	ポスター制作1	(1) ポスターを制作するにあたって	66
		(2) 優れた作品から学ぶ	
5	ポスター制作2	(3) テーマの選定	
		(4) アイデア、表現への展開	
6		中間合評	
		※完成作品は佐賀県美術展へ出品・仕様書に従って、内容を把握する	
7			
8	ポートフォリオ制作	・ 伝達すべき内容が伝わる画面構成 (1) 画像の表現 (2) 文字情報の処理	42
9			

10	絵本制作	・オリジナル絵本制作	1 0 2
		(1) 企画・構成	
11		(2) イラストレーション	
		(3) スキャニング・画像補整	
12		(4) レイアウト	
		(5) プリントアウト	
1		(6) 製本	
2			

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	デザイン史	2	3	デザイン	選択	デザイン史 電機大

### 1. 学習の到達目標

人間の造形作品は、時代・地域により特定のスタイルを持っている。各時代や地域に現れた独自の文化を学ぶことによって、造形様式の中に表されている社会の思想・世界観や美意識、さらに当時の生産技術の内容や造形素材に対する認識までも読み取り、これからの時代のデザインのあり方を考え、造形活動に生かすことができるようにする。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	デザイン史に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って自己の属する国や地域で展開していった出来事を理解するとともに、自己の創作活動や技術の勉強に役立てることができる。	歴史的事象から課題を見出し、デザイン史成り立ちを歴史的な視野から多面的・多角的に考察し、現代の諸課題を歴史的な観点から追及し、自己の課題に役立てる。	教科書や資料を使って、うまくノートにまとめることができ、後の学習にやくだてることができる。同時にデザイン史についての知識を深く理解でき定着させることができる。	諸国の文明の発達とデザイン史の展開をわが国のデザイン史の展開との関係に留意しながら理解し、その知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

人間の造形物には作者の思想や感情が込められている。こうした造形の中にある人間の精神活動を文化と呼ぶならば、デザインの歴史は造形文化の歴史を中心とした営みだといえる。デザインの歴史を追っていくこと、ものに込められた感情を読み取る作業は知りたい欲求を十分に満たしてくれるものと考えよう。

### 3年 デザイン史 年間指導計画表

単位数（2単位） 教科書：デザイン史（東京電気大学出版局）

目標	造形とデザインの歴史を理解させ、実際に創造し鑑賞する能力と態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	デザイン史における近代デザインの位置づけ	デザイン史を学ぶことの意義（理論） 近代デザインのはじまり 産業革命の影響とデザイン	6
5	アーツ・アンド・クラフツ運動	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	14
6	アール・ヌーヴォー	アール・ヌーヴォー	
7	近代デザインの成立と展開	科学技術の発達 近代美術の革新	10
9	近代デザイン運動の試み バウハウス	デ・スタイル	24
10		ドイツ工作連盟	
11		バウハウス	
12		ニュー・バウハウス	
1	アール・デコ 現代のデザイン	アール・デコ	16
2		現代デザイン	

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	プロダクトデザイン	2	3	デザイン	必修	デザイン材料

### 1. 学習の到達目標

プロダクトデザインでは工業製品のモデルを作ることを行います。工業製品とは工場で大規模生産できるものを言いますが、生産に入るためにはその商品の元となるモデルが必要です。この科目は2, 3年の2年間で学びますが、3年次は社会生活に適応した、より使いやすい製品を身近なものとして考えてもらうために、アイデアから図面作成、モックアップモデル制作に至るまでを学習します。完成に至るまでの行程も計画性を持ち、必要な道具や必要な素材を用いての総合的な造形力も身につける。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	制作に関する技術に関心を持ち、生活の改善・向上を目指し、創造的、実践的態度を養う。	制作に関する技術およびその用途に関する問題を広い視野から考え、その解決策を適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	環境に適応した製品を作り出すために製品に関する基礎的な技能・技術を身につけ、計画性のある処理能力と表現能力を身につけている。	あらゆる生活の中においてプロダクトデザインが果たすべき役割について学び、その必要性について理解している。
評価の方法	出席状況 授業態度 作業能力 計画性 (アイデア→図面制作→作品制作) 提出期限などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

工業製品（立体物）をより身近に感じてほしいと思います。基本・基準となる形状の美しさや加工技術など大切さを知ることは他の作品制作にも繋がるものがあります。

石膏、木材、粘土など様々な素材を使って作品制作をします。立体物の制作は計画性が必要ですので、計画的に製作するように心がけて受講して下さい。

### 3年 プロダクトデザイン 年間指導計画表

単位数（2単位） 教科書：デザイン材料

目標	社会生活に適応した、より使いやすい製品のアイデアを考え、それらのモデルを制作します。誰もが使いやすく、色彩や形状が美しい製品開発を目指します。			
月	大項目	中項目	時数	
4	立体デザインの演習	1. アイデアスケッチ	45	
5		2. 図面作成		
6		3. 素材を用いた成型作業・仕上げ作業		
7		4. 合評会		
8		工業製品のモックアップ（試作品）モデル制作		1. アイデアスケッチ
9				2. 図面作成
10				3. 素材を用いた成型作業・仕上げ作業
11	4. 合評会			
1				
2				
3				

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	ビジュアルデザイン	2	3	デザイン	選択	なし

### 1. 学習の到達目標

コンピュータを使用したさまざまなデザイン演習を通して、ビジュアルデザインについての特性を知り、ここに応じた適切な企画制作ができる知識と能力を身につける。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の規準	視覚伝達の機能と現代社会との関わり合いに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。	視覚伝達としてふさわしいデザインを考え、その善し悪しの判断をすることができる。	視覚伝達としてふさわしいデザインを考え、技能を駆使して表現することができる。	視覚伝達デザインの種類とその用途に関して正しく理解し、知識とすることができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題などの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

コンピュータを使って、印刷物を中心とした伝達を行うデザインを勉強します。2年次の学習を踏まえて、デザインの基本を守りながら時代に即した高校生らしい作品を期待しています。

3年選択 ビジュアルデザイン 年間指導計画表 単位数（2単位）

目標	印刷物を中心とした演習を通してビジュアルデザインの表現手段についての知識を深めると同時に、制作にあたって使用するコンピュータの操作、制作技術を習得する。		
月	大項目	小項目	時数
4月	オリエンテーション		2
5月	作品集（ポートフォリオ）の制作	写真撮影	4
5月		[学習内容] ページ構成の基本理解 レタッチ 画像編集 文字の入力 情報デザイン	12
6月	演習 1	紙面構成とレイアウト	6
7月		[学習内容] 画素の理解 レイアウトの基本 ルーラー、整列 複数ページの編集の仕方 イラストレータとの関連	12
9月	演習 2	演習 プレゼンテーション（3分間） テーマ設定 情報の収集、整理、分析 スライド作成 シナリオ制作	6
10月		効果的なアニメーション作成 プレゼンテーション	
11月	プレゼンテーション （課題研究と連携）	課題研究プレゼンテーション作成 テーマ設定 情報の収集、整理、分析 スライド作成 シナリオ制作 プレゼンテーション	12
12月			
1月 2月	課題研究集 （課題研究と連携）	課題研究集原稿作成	8

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	素描	2	3	デザイン	選択	スーパー鉛筆デッサン (グラフィック社)

### 1. 学習の到達目標

素描は、対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高めることを目的としています。デザイン科3年次の内容は、生徒の進路希望等に応じて、デッサン、スケッチ、鑑賞を弾力的に取り扱います。

### 2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
評価の規準	対象に深く迫り、課題に意欲的な態度で取り組むことができる。	対象の構造を、多角的に捉え、見えていない形の裏側を探りながら表現できる。	表現意図に合った用具を正しく使い、対象のもつイメージや空間を表現できる。	課題の条件を正確に理解して制作し、合評会で学習した知識を制作に生かすことができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題などの提出物の状況などを総合的に判断して評価します。			

### 3. 教科からのメッセージ

2年次の素描で学んだ、対象への深い観察、構造理解、的確な表現をさらに深めるのが、本単元です。3年次では高校生活の集大成として、対象を取り巻く空間を描く、という視点を持ち制作をします。その素描の訓練を通して、物事の見方や自分らしい表現方法で仕上げます。進路先を視野に入れて、各自で出題傾向に応じた内容に取り組む。

3年 素描 年間指導計画

単位数 (2単位)

目標	造形表現の基礎となる形態や空間などを把握させ、的確な観察力を養い、表現と鑑賞の能力を高める。			
月	大項目	中項目		時数
4	オリエンテーション	評価基準や年間計画について		1
4	空間を意識した基礎表現 有機物による表現	1. 顔と手をモチーフとした表現		19
5				
6		2. 合評		1
6	静物デッサン (基礎)	1. 集合モチーフの空間表現		9
7		2. 合評		1
9	進学対策展開授業	進学対策	就職対策	14
10		希望大学実技デッサン	モチーフデッサン (応用1)	
		合 評	合 評	1
11	進学対策展開授業	希望大学実技デッサン	モチーフデッサン (応用2)	14
12		合 評	合 評	1
1	進学対策展開授業	木炭デッサン	着彩表現 (応用)	10
2		合 評	合 評	1